

図書版だより

題 字 田部島根県知事

号 数 第 10 号
発行日 昭和 45 年 10 月 15 日
編 集 楫 野 健 治
発 行 島 根 県 立 図 書 館
松 江 市 内 中 原 町 52
T E L (0852) 22-5725
印 刷 渡 部 印 刷 株 式 会 社



県立図書館一般閲覧室利用風景

— 読 書 週 間 に 寄 せ て —

〓情報化社会の問題解決を読書で〓

情報化時代あるいは、情報化社会といわれる時代を迎えて、いわゆる情報がわれわれの生活にどのような意味をもつのか。そして、影響があるとすれば、それにわれわれはどう対処すべきものか。という課題で、いろいろと講演会や研究会がもたれる昨今である。

そこでは、情報の洪水の中で、人間性が逐次失なわれようとしているのではないかという不安から人間性の回復が叫ばれ、過多情報の中から適当に情報をえり分けていくだけの処理能力を身につけなければなるまいということ、さらには、人間の知識能力や精神能力までが、やがてはコンピューターに取って代わられるようなことにでもなれば、必要な知識や、情報を基として、さらに価値を生み出すものとしての創造性を養って置かなければなるまいとする研究や討議が繰り返されるのが常である。

これらの問題を解決するためには、人間性の回復や処理能力や創造性を養うための方法論が具体的に考えられねばならないであろう。

まして、社会教育が生涯教育と呼ばれるように人間の一生を通じての学習であり、社会教育の本質はとりもなおさず個人学習にあると理解するならばなおさらである。

マンガのはんらんから、やがては小説や哲学さえも、マンガのかたちで受け入れようとさえいわれる時代ではあるが、一方で「心」や「道」や「禅」といった内容の本がベストセラーズになっているのも、こうした人達の自然の欲求によるもののように思われる。

そして、何百年、何千年前の思想や、文学がなお多くの人達に読みつがれ、親しまれているのは、すぐれた古典の中にわれわれを引きつける何かがあるからではなからうか。

われわれは個人学習としての、それぞれの読書を通じて、また集団的な読書の方法で、地道ではあるが、この問題の解決をはからねばならないと思う。

社会教育課長 岡 村 稔

わたしの読書法

島根大学教授 大坪 併 治



わたしは国語の教師である。本を読むのが商売だから、わたしの読書法なんか一般の方々の参考にならないだろうが、世の中にはこんな読み方もあるということを知っていただく機会になるだろう。

第一に、わたしは教えるために読むことが多い。Aという文学作品を国文学の教材として取り扱うためには、まづAを繰り返し読む。教材とするほどの作品ならば、すでに幾度も読んでいるのが普通であるが、「教える」となると、改めて読み返す。そして、ただ話の筋を理解するだけでなく、その主題・素材・構成・表現等を分析し、難解な語句については、辞書を引いて読み方や意味を調べる。次にAと同じ作家の手になる他の作品があれば、それを読んで、Aがその作家の全作品の中でどういう位置を占めるものであるかを考える。次にAと同じ時代の他の作家の作品を読んで、Aと比較し、Aの存在価値を考える。次に、Aよりも前の時代の作家の作品を読んで、Aが先行文学から何を受け継いだかまた、その上に立ってどんな新境地を開いたかを考える。次にAよりも後の時代の作家の作品を読んで、Aが後の文学にどんな影響を与えたかを考える。こうして、わたしは、Aそのものを徹底的に読み解くと共に、Aに関係のある他の作品を数多く読むことになる。昔から「教ふるは習ふのはじめ」といわれているように、「教える」ために読むことが、Aをより深くより広く理解することに役立つのである。

第二に、わたしは、書くために読むことが多い。研究が進んで結論が出ると、論文にまとめて発表するのであるが、実際には、大体見当のついたところで書きはじめ、書きながらさらに考えて結論を出すのが普通である。論文をまとめるに当たっては、多くの参考文献を参照しなければならない。自分では独創的な研究だと思っても、他の学者がとっくに発表してしまっていることもあれば、逆に大した研究でもないと思っていたことが、意外な発見であることに気付くこともあり、また、部分的に他の学者の考え方を導入することによって、自分の理論をよりスムーズに展開できることもあるからである。もちろん、こうした場合の読書は、さし当って必要などころだけ拾い読みにするのだから、時間は大して

かからない。それでも、一篇の論文を書くために、数十篇の論文や著書を読みあさるのは、読書というよりも作業に近い。論文のでき上がった時の喜びに報いられたものは、余り楽しいものではない。学生時代、江戸文学研究家の額原退蔵先生が、「書くために読むのはつらい。」といわれたことを思い出す。額原先生ほどの方でもやはりそうだったのかと思う。

第三に、わたしは、書評を書くために読まされることがある。学者の端くれにいと、学術雑誌の編集部から時々専門図書の手評を依頼される。自分の読みたい本を読みたい時に読んで、自分の分ったところだけ、好き勝手に批評するのは気楽だが、某氏の某書について、某月某日までに、何枚以内に書いて送れと来ると厄介である。そういう場合は、たいてい著者から一冊寄贈を受けていることが多いので、ことわることができない。覚悟を決めて、隅から隅まで読む。わからないところは何べんでも読む、読むに従って要点を書き抜いておく。それが終ると、抜き書きを読み返して読者の基本的な考え方や、取り扱われている資料や、研究方法の理解に努める。十分理解できたところで、まづ、読者のために内容を要約して簡潔な紹介文を書く。次に、わたしの見た長所と欠点とを指摘して、学術上の価値を論ずるのである。論評はあくまでも公平妥当であることが必要で、不当にほめることも不当にけなすこともよくない。ところが、たまたま自分の研究領域のことであれば、読んでよく分るし、正しい論評もできるが、そうでない場合は読んでよく分らないし、まして論評などできるはずがない。そこで、読みながら自分でも研究したり、他の学者の論文や著書を参照して、両者の説を比較してみる必要も起ってくる。だから、五百頁以上の本になると、読むだけで一ヶ月くらいかかる。それは自分の研究をまとめるために参考文献を読むよりもっと苦しい。しかも、相手が恩師や先輩であると、批評するのも失礼、しないのも失礼となって、書評の書きようがない。わたしにも、苦い経験がある。しかし、ある本の書評を書くとき、普通に読んだ場合に比べ、理解度は格段に深く、著者の研究が身について、大いに勉強になることは確かである。

読書も商売になると、楽しみよりも苦しいことが多いようだ。

私たちの読書グループ

雑賀読書会

P T A文化部の活動の一端として雑賀読書会が始められたのは、狩野先生を雑賀小学校にお迎えした昭和43年の7月からでした。

子どもたちに「本を読みなさい。」という前に、親がその手本を示そうじゃないか、親も子どもに負けずに勉強しようじゃないかという素朴な考えでスタートしました。今年で3年めを迎えます。年度が変わるごとに会員の出入りがありますが、30名前後の有志のがっちりしたグループで続けております。

原則として、毎月第三土曜日の午後、先生を囲んで開いています。とりあげてきた本はいろいろで会員の希望や推せんや、時には先生に一任したりで、一括購入し同じ本をテキストに話し合っております。読んだ本も、今では20冊近くになりました。

さぶ・華岡青州の妻・あ、野麦峠・海軍主計大尉小泉信吉・アカシアの大連・赤頭巾ちゃん気をつけて・私の生き方考え方・素顔の日本・ハノイの微笑・暗夜行路・八月の太陽・海からの贈物・山の音・二十四の瞳・子供を見つめる読書指導・高瀬舟・阿部一族・日本婦道記などを読んできました。今回は高田好胤さんの「心」と

「道」を予定しています。

私たちが多忙な母親、主婦としての日常生活の中で、読書の時間をもつことはたいへんな努力がいきます。時にはいねむりをして、子どもにはげまされたこともありましたが、読書グループにはいつから、月1冊の最低線でもいいから読むことができる現在に感謝しています。

会のもち方も、全員発表方式、自由発表方式、また、あらかじめ感想文を持ちよってプリントしておき、読みあったり、親子で読んで、子どもの感想を聞いたりしています。初めは、本を読むのはいいが、感想をのべあうことに抵抗を感じていましたが、他の人のいろいろな感想を聞くうちに知らず知らずだれもが深い読みとりができ、たとえ1日でも満ち足りたような気がして家路につくことを、ほんとにありがたく思っています。

とかく外面的なものにとらわれがちで、また殺風景でせちがらい現実社会の中で、月一回の集いに、内面的な心の糧としての読書のよさを体得するにつれ、子どもさんが卒業されても、引き続き参加されている方も多く、この集いが、末永く続いてくれるよう願っています。

(松江市雑賀町 市場久枝)

レファンスコーナー

(問) 有機水銀の人体に与える影響について

(答) 有機水銀とは、メチルとかフェニールなどの有機物を含んだ水銀のことであるが人体にきわめて有害であり中毒症を起す。メチル水銀があつた有名な水俣病の原因となつたものである。

水俣病とは、熊本県の西南端、不知火海に面した小工業都市水俣の周辺漁村部落に昭和31年から36年にかけて続発した。死亡率40%という汚染被害では戦後最大の公害病である。工場から流出したメチル水銀を体内に入れた魚介類を反復大量に食べた人がこの痛ましい病気にかかったと報告されている。

その症状は悪心も下痢も発熱もなく、水俣の魚介を食べるうちにいつしか手足がしびれ、足もとがふらつき、舌がもつれてくるという無気味なものである。重症の場合は盲目、つんぼとなり、狂って死ぬケースも多い。脳神経細胞をやられておこるものであるから治療の方法もないのが現状である。

その外に最近稲の農薬に使う有機水銀が問題になった。

(資料)

- ・世界大百科事典 12 「水銀」の項
- ・恐るべき公害 庄司 光、宮本憲一
岩波新書 122~125ページ
- ・ジュリスト 458号 公害特集 38~42ページ

<図書館司書のメモ>

読書と私

開館と同時に押し寄せる学生の波。開館後30分の間に満席となった夏休みに比べて、平素の静けさをとりもどした秋。読書週間を迎え、当館でも盛大なる行事が計画されている。この読書週間が、ただ一時的な催しで、終わってしまうのはむなし。この期間を通し、読書を、より身近なものとして、日常生活の中に取り入れて行きたいものだ。

文明の発達に従い、本の数は増加する一方である。機械化が進み、人間同志が疎遠になりがちな今日、本と人間、図書と利用者の橋渡しをする図書館、図書館職員の必要が、痛切に感じられる。選定した図書が、最初の人に貸し出され、次々と手垢で汚れていくのを見ると、次の選定にも一段と力が入る。

娯楽として気軽に読む本、仕事上必要に迫られて読む本、他人に推せんされて読む本。読書には、その時々状況、本人の心情に照らし合わせて、無理をせず読むのが一番楽しく、また長続きもする。心の自由な広がりとともに、読書の幅も広げて行きたいものである。

(来島弥生)

公共図書館の広場

一浜田市立図書館の巻一

—20世紀の夜明けとともにスタート—

わが浜田市立図書館は、今からおよそ70年前、当時島根県立第2中学校の校長であった中原貞七氏を中心に5、6名によって図書館の創立が提唱せられ、やっと明治34年(1901)6月初旬「私立図書館」として蛭子町に細々ながらも仄々の声をあげたのである。

その年代は、わが国の産業および貿易面も国際的に地位が漸次上昇への緒に着いた20世紀の幕開けの年でもあった。

(イ) あゆみ

明治34年2月 本館創立の提唱起る
 “ 6月 「私立図書館」として蛭子町に創立
 “ (月不詳) 紺屋町に移転
 明治35年8月 7日ヶ丘に移転
 大正7年(月不詳) 殿町1170—3に移転
 大正14年4月 「町立図書館」と改称
 昭和15年11月 「私立図書館」と改称
 昭和22年6月 日本図書館協会入会
 昭和23年8月 殿町1177—72(旧公会堂)に移転
 昭和24年6月 運営協議会結成
 昭和25年7月 「浜田市立図書館設置条例」制定
 昭和30年4月 殿町2(警察署跡)に移転
 昭和43年11月 新館建築起工
 昭和44年3月 新館竣工(殿町8)
 “ 5月 新館業務開始

(ロ) 施設・設備概要

位置 浜田市殿町79—8 TEL浜田(2)0480
 建築面積 350.56㎡
 建築物 鉄筋コンクリート地上2階
 (延面積 686.29㎡)
 工費 31,195,000円
 収容人員・蔵書(昭和45年3月末現在)
 児童閲覧室 46名席
 一般閲覧室 44名席
 視聴覚室 40名席
 会議室 30名席
 開架書架 約14,000冊
 閉架書庫 約11,000冊
 郷土資料 約1,100冊



新装なって一年、秀麗な山姿を望むモダンな図書館

—自由尊重の閲覧・貸出をモットーに—

当館は市民のための図書館である。従って多数市民の皆さんが気軽に自由にこれを利用されることによって、始めてその存在価値がある。これがため、一般利用者に対してはできるだけ奉仕をおこなっている。

(イ) 閲覧奉仕

下表に示すとおり、待望の新図書館誕生でその利用者数の激増振りを御覧いただきたい。

昭和44年度閲覧状況

| | 児童 | 生徒 | 学生 | 一般 | 計 |
|----|------------------|------------------|------------------|------------------|--------------------|
| 館内 | 2,769 (609) | 1,016 (276) | 897 (563) | 3,324 (1,857) | 8,006 (3,305) |
| 館外 | 7,031 (4,276) | 1,253 (1,221) | 897 (813) | 3,173 (3,764) | 12,354 (10,074) |
| 合計 | 9,800 (4,885) | 2,269 (1,497) | 1,794 (1,376) | 6,497 (5,621) | 20,360 (13,379) |

(注) ()内は昭和43年度(旧館当時)分
 昭和44年度は1カ月間休館

(ロ) 夏季夜間閉館

7月および8月の2カ月間、毎週土曜日は午後9時まで閉館・平均20~30名の学生と一般利用者で、快い夜風の中で研修に余念がない。

(ハ) 郷土資料室

郷土を知り、研究する手がかりとなる文献資料は現在約1,100点を蔵している。昭和45年1月には郷土資料目録もできあがったが、今後はさらにその充実を目指し、資料の収集に専心努力しなければならない。

(ニ) 複写サービス

電子コピーの備え付けで館内外の資料複写の希望は一日約20名、枚数およそ200枚でその数は日ごとに増加の一途。

(ホ) 古文書を読む会

(ヘ) レファレンス・サービス

—地域に伸びる読書普及の気運—

(イ) 配本所

市内八カ所に設けられた「佐々田奉公会地域簡易閲覧所」を基盤に比較的文化に恵まれない地域への読書普及の推進を図っている。利用状況は下表の通りである。

| 地域名 | 上府町 | 国分町 | 杉戸町 | 樺田原町 | 長見町 | 長浜町 | 周布町 | 美川町 | 計 |
|------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 配本冊数 | 48 | 45 | 41 | 40 | 46 | 40 | 40 | 41 | 338 |
| 利用冊数 | 120 | 55 | 110 | 70 | 70 | 105 | 51 | 146 | 727 |

∴近日、宇津井町に配本所設置の予定

(ロ) 図書館報

市民の、読書への理解と興味を喚起するために、
 「宣伝活動」の一環として不定期ながら発行をつけている。昭和45年9月、第11号発行。

—70年の歴史と伝統を礎に—

70年の長きにわたる歴史を背負った当館は、本来の使命を明確に把握し、今後ますます躍進する社会の要請にも応じつつその内容を充実し「市民のための社会教育の場」としての機能を十二分に発揮したいと願っている

いつでも どこでも 楽しい読書!

—第24回読書週間事業決まる—

恒例の秋の行事「読書週間」が来る11月3日の文化の日を中心に、前後2週間にわたって全国一斉にくりひろげられます。

県立図書館では、島根県読書推進運動協議会と共催で本年度読書週間行事を次のとおり決定しましたので関係各方面のご協力を特にお願いたします。

(1) 移動図書館特別巡回

市町村立図書館およびモデル文庫の育成援助をはかるため、図書館車「しまね号」により読書週間の期間中に関係市町村を巡回し、図書貸し出しや、読書指導をおこないます。巡回日程は次のとおり

| 月/日 | 巡回地 市町村立図書館 | モデル文庫 |
|--------|----------------|----------|
| 10月27日 | | 鹿島、八雲、八束 |
| 10月28日 | 安来、布部 | |
| 10月29日 | 大東 | 仁多 |
| 10月30日 | 大社、大田 | |
| 11月4日 | 木次 | 三刀屋 |
| 11月5日 | 出雲 | 赤来 |
| 11月10日 | 益田 | |
| 11月11日 | 津和野 | 柿木(匹見) |
| 11月12日 | 浜田 | 石見 |
| 11月13日 | | 端穂 |

(2) 第2回読書普及振興大会

読書普及をすすめるため、県下の読書会員をはじめ各市町村社会教育担当者、公民館配本所の担当者等の参加を求め「読書グループをつくりましょう」をテーマに、講演や体験発表、研究討議をおこなった読書普及の振興をはかるため次の日程により大会を

開きます。

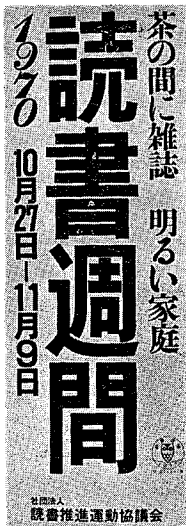
- ・とき 11月16日(月)
- ・ところ 島根県立図書館
- ・日程
 1. 表彰式 読書普及に貢献した人
 2. 公開読書会
 3. 読書体験発表
 4. 講演 広島女子学院大学講師 山手秀子女史

なお参加者希望者は、だれでも出席できますので市町村教育委員会を經由して申し込んでください。

(3) 郷土文学に親しむ会

- ・日時 10月27日 17時30分
- ・場所 県立図書館集会所
- ・演題 近代文学の先駆者 森鷗外
- ・講師 島大文学部教授 森 亮
- (4) 「古文書を読む会」を語る座談会
- ・日時 11月7日(土) 14.30~17.00

- ・場所 県立図書館集会所
- ・出席者 南高校教諭 藤岡大拙先生
出雲高校教諭 藤沢秀晴先生
会員ほか



〈私の選んだ本〉

「市民の図書館」 編集、発行 日本図書館協会
市町村立図書館とは何をするとところでしょうか、何のためにあるのでしょうか、今後の図書館はどうあるべきでしょうか、このような疑問に答え、また図書館を理解することのできるのがこの本です。

市町村の関係者の方々はもちろん、一般の方々も是非ご一読いただき、この本にあるような理想的図書館が県下全市町村に出現することを望みます。

(木佐由延)

「女人の京」 岡部伊都子著 新潮社
やまと、京の郊外を散策すれば、小さいけれど数多くの墓所、神社にめぐりあう。それら一つ一つが静かに眠る姿は、私たちが過去を振り返ろうにも困難なほど静かである。しかし一人の女人として自己を滅することなく生き続けた姿は、歴史の中に一つの珠として残るであろう。

著者特有の淡々とした文章の中にも情味あふれる作品である。

(大江孝子)

「生きて学ぶ」 坂西志保著 雷鳥社刊
努力とか誠実とかいった、一連の道徳的響きを持つ言葉に、最近では気恥ずかしくて気がきかなくてといった意味が加えられているようです。しかし異端・ハレンチ・風変わりであることがすてきなことであるため

には、片方に、本書のような正統的なものの考えが健在でなくてはなりません。鋭いけれども浅薄なことの多いマスコミの中で、著者のストリートな明治生まれらしい気骨ある発言が愉快です。

(森広量子)

「異邦人」 カミュ著
アルジェの強烈な太陽と動機のない殺人。そのため罪の意識のない主人公ムルソー。平凡な人間が何の目的もなく、ただ太陽と静寂を打ちやぶるために人を撃つ。

判事は彼を人間らしさのない、道徳原理をもたない人間として死刑の判決をくだす。

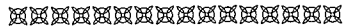
自分を理解してもらおうことのできない心の異邦人ムルソー。現代人にも通じる何かを持つこの作品にとてもひかれた。

(大国久美子)

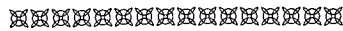
「嵐が丘」 E・ブロンテ作
感動した本ではないが、不思議な魅力のあるこのロマンは時々思い出す。また、いろいろな人生経験をした後読んでみたいと思う本である。主人公の人間的情熱の強さで彼の悪魔性を昇華した行動が、荒涼たる北国を背景に涼絶なまでに美しい小説になっている。

作者の激しい気性と、鋭い感受性ですべての習俗を解放したロマン主義が退屈で孤独な日常に思い出される。

(藤井幸子)



寄 贈 図 書



昭和 45. 7 月～8 月



45年 7月～8月

| 図 書 名 | 住 所 | 寄 贈 者 |
|------------------|-----|-----------|
| 私の書いた人物論 | 松江市 | 白名瞭悦郎 |
| 白夜祭 | " | " |
| 郵政百年史資料 1巻 | 東京都 | 郵政大臣官房秘書課 |
| 彼岸花 | 益田市 | 緑野短歌会 桜木保 |
| 現代社会と青少年の役割 | 松江市 | 婦人児童課 |
| 中海干拓事業経過録 | " | " |
| 武田幸一童話集 | 福岡県 | 福岡県文化会館 |
| 風土記 出雲・石見 | " | キムラフジオ |
| 瀬石の世界 | 邑智郡 | 宮井一郎 |
| 現代作家論 | " | " |
| 公共建築 | 松江市 | 基常治郎 |
| 温泉小学校小史 | 大原郡 | 田中秀夫 |
| 島根女子短期大学紀要 | 松江市 | 島根女子短期大学 |
| 吉田村産業開発の基本的方向と課題 | " | 北川 泉 |
| 原価計算入門 | 松江市 | 壇原そえ子 |
| 一教育家の生涯 上中下 | 福山市 | 西田敬三 |
| 続ハーン資料と考証 | 京都市 | 梶谷泰之 |
| 萩城下町地図 | 萩 市 | 脇 英夫 |
| 島根県林業構造の特殊性について | 松江市 | 柳浦文夫 |
| 阿南惟幾伝 | 東京都 | 阿 南 会 |
| 漂泊の民族 | 西宮市 | 藤井英男 |
| 広島師団史 | 広島県 | 広島師団史研究室 |
| 山陰文化研究紀要第10号 | 松江市 | 島根大学 |
| 波 濤 | " | 林 霞舟 |
| 戦後農林統計史 第2巻 | 東京都 | 農林統計研究会 |
| 唐蜜貨物帳 上下 | " | 内閣文庫 |
| 史料館所蔵民族資料図版目録 | " | 文部省史料館 |
| 神田市場史 上下 | " | 神田市場市刊行会 |
| 日本革命の戦略 | 松江市 | 高谷覚藏 |
| 仁保事件 | " | 石川利夫 |
| 都山流七捨年史 | " | 都山流史編纂委員会 |
| 土地改良の歩み | " | 吉田 純 |
| 読書感想文 | 出雲市 | 出雲高等学校 |
| 文海知津 上下 | 東京都 | 佐々 佐 |
| 国宝円覚寺舍利殿 | 横浜市 | 神奈川県教育庁 |
| がす資料館年報 | 東京都 | ガス資料館 |
| 林家と共に20年 | " | 島根県 |
| 植生図・主要動植物地図 | 東京都 | 文化庁文化財保護部 |
| 鉄骨橋梁年鑑 1969 | " | 鉄骨橋梁協会 |
| 藤楓文芸 | 松江市 | 苅田良吉 |
| 島根県埋蔵文化財調査報告書 | " | 社会教育課 |
| スイスの文化と芸術等 | 大阪府 | スイス館 |
| 句集 枯野屋 | 石川県 | 飯田正一 |
| タスケテクダサイ | 松江市 | 椿 順子 |
| チャート式数学 I II | " | 松本義孝 |

45年

- 6月1日 名著復刻展（6月展示）
- 3日 中国地区整理技術講習会（講師、図書館短期大学服部教授）
- 4日 大学服部教授）
- 8日 映写機登録検査（松江地区12日まで）
- 11日 県図書館協会通常会（むらくも会館）
- 13日 文化映画を見る会、ステレオコンサート
- 17日 大東専修職業訓練校 60名見学
- 20日 古文書を読む会
- 24日 松江市立津田小学校3年生 160名見学
- 25日 大東町立海潮小学校4年生 35名見学
- 27日 浜田学園 15名見学
- 30日 読書会リーダー研修会（講師広島女子大事務局長新開肇）

〔6月中閲覧者総数 9,340名〕

- 7月1日 来松知名人色紙展（7月中展示①）
閲覧時間延長（19時まで7、8月）
- 3日 鹿児島県郷土建設青年大学研修生 13名見学学習
- 9日 文部省社会教育局視聴覚課長来館視察
- 11日 文化映画を見る会、ステレオコンサート
- 13日 群馬県社会教育課長外1名見学
- 16日 郷土建設青年大学研修生 30名見学
- 17日 郷土の歴史講座（第1日目20名）
- 18日 古文書を読む会（60名）
郷土の歴史講座（第2日目30名）
- 19日 岡山県建築士会 46名来館見学
- 21日 郷土の歴史講座（第3日目33名）
- 22日 郷土の歴史講座（第4日目40名）
- 23日 郷土の歴史講座（第5日目36名）
- 24日 映写機操作認定講習会（木次町25日まで）
- 25日 鹿島町老人学級 110名見学学習
- 28日 斐川町斐川西中学 40名視聴覚学習
大阪府立図書館庶務係長来館視察

〔7月中閲覧者総数 12,167名〕

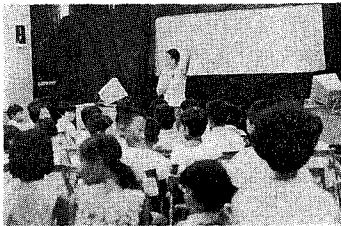
- 8月1日 来松知名人色紙展（8月中展示②）
- 4日 群馬県教育長、教育委員5名外、来館視察
- 6日 松江市立朝日幼稚園児・PTA 30名見学学習
- 7日 田部県知事外5名来館視察
- 8日 文化映画を見る会、ステレオコンサート
- 21日 移動文化教室（隠岐島五箇村・布施村 22日まで）
- 25日 県図書館協議会
巡回図書館（冷暖房完備）購入
- 29日 古文書を読む会
- 31日 自動車文庫巡回（八東・平田コース）

〔8月中閲覧者総数 18,932名〕

図書館ニュース

移動文化教室離島隠岐を巡回!

昨年度からはじめた移動文化教室を、本年度は日本海の孤島隠岐で8月20日から3日間島後地区は布施村、島前地区は海士町で実施しました。この事業は県立図書館の文化的な機能を動員して遠隔の地を巡回し、直接その地区の人びとと接して読書普及の振興を図ることが目的で行事内容は、文化講演会や文化映画を見る会をはじめこども会(人形劇等)、知名人色紙展、図書の貸し出し等いづれも読書にちなむ多彩なものでありました。



この教室の一行は広島から教育評論家の切明悟氏、中国ブッククラブの矢口部長、藤田次長を迎え、県立図書館から西山次長ら4名、島大演劇班を加えて総勢16名の編成でかけました。

島後布施会場では、文化映画やこども会に人気が集中し中でも文化映画は納涼をかねた催しとなり、参集者も多く地元の産業が漁業のためか、南水洋の捕鯨は特に興味をもって鑑賞されました。

翌21日は会場台風20号に見舞われ、文化講演会やこども会、展示会などの諸行事は刻々悪化していく天候の中で進められ、参会者と十分話し合いができなかったのは誠に残念でした。

島前海士地区は台風のため日程を変更して22日の正午から海士小学校において、文化講演会、こども会、色紙展などの行事をおこなったが、各会場とも定刻には超満員となり、こども会場では島大演劇班のたくみな人形劇に感嘆し一同拍手で鑑賞しました。

一方講演会場では、切明講師の「こどもの幸福のために」のテーマで、具体的事例がとりあげられその一つ一つの的確な解説がなされ、最後に解決策としての読書の必要性が強調され参会者に深い感銘を与えました。講演が終わってからも参集者から学校、家庭からの切実な問題について質問が続出しましたが、時間の都合で打ち切らざるを得なかったのは残念でありました。

わずかる日間の日程でしかも台風遭遇という悪条件にもかかわらず地元教育委員会をはじめ関係者のご尽力で一応の成果をあげることができたことを新ためて感謝します。

貴重資料ぞくぞく寄贈さる!

1. 原 伝氏収集資料

郷土関係の名著「松江藩における経済史の研究」の著者であり、農業経済のすぐれた研究者として将来を囑望されながら若くして他界された原 伝氏が多年にわたり収集された二千余点の資料は飯石郡三刀屋町鍋山の同氏の生家に令姉エイ氏の手で大切に保存されていたが、このたび当館に寄贈された本館の資料にまた一つ珠玉を加えることになった。この資料については当館の桜木囑託が45年9月3日付島根新聞に詳細な記事を寄せている。

2. 一教育家の生涯 一西田千太郎日記を辿る一 (稿)

明治中期に松江中学校教諭として勤務した西田千太郎氏の日記はヘルン研究にはもちろん当時の教育事情研究にも欠くことのできない資料であるが、本稿は同氏の次男敬三氏がこの日記を骨子として編集されたもので、先般当館の懇望をいれ寄贈して下さったものである。まだごく限られた人しか眼をとおしていないまたない貴重なもので、将来印刷して出版する価値あるものと思われる。

県立図書館事業予定

| 月 | 日 | 事業名 | 対象 | 場所 | 展示コーナー |
|----|--------------|-----------------|-------|-------|----------|
| 11 | 上 | 読書普及振興大会 | 一般 | 県立図書館 | 郷土資料展 |
| | 中 | 移動図書館特別巡回 | | 関係市町村 | |
| | | 県公共図書館協議会秋季総会 | | 県立図書館 | |
| 下 | 自動車文庫巡回(第3回) | 読書会等 | 関係市町村 | | |
| 12 | 下 | 著者を囲む読書座談会(第3回) | 一般 | 県立図書館 | 日本文学館複製展 |
| | | 県図書館協議会(第4回) | 協議会委員 | 〃 | |

人事異動

◎よろしくお願ひします。

主事補 藤原 博志(中小企業指導室から)

◎お世話になりました。

主事 中原 武男(松江水産事務所へ)

司書 宮脇 紀子(退職)

新着資料の紹介

1. 図書資料

総記

書名 著名
ふたりのこいびと 石井 好子
科学計画への道 北川 敏男

哲学

構造主義 ジャン・ピアジェ
フィヒテ知識学の研究 隈元 忠敬
トマス・アクィナス哲学の研究 稲垣 良典

歴史

古文書学概論 図書刊行会
全国トラベル百科 春夏秋冬 はとバス興業
記念碑都市 小川 博三
明治の墓標 大浜 徹也
ロココ —18世紀のフランス—
マクソン・フォン・ベーン

社会科学

地方公務員研修選書 全24巻 自治大学校
日本の巨大組織 朝日ジャーナル
就職ガイド 上、下 ダイヤモンド社
北京十二年 西園寺公一

自然科学

天然記念物の動物たち 畑 正憲
漢方薬入門 難波 恒雄
9000万人は何を飲んだか 高橋 暁正

工学

うそつき表示 川井 克倭
檀流クッキング 檀 一雄
低血圧、貧血と食生活 萩野 健一
建築と都市 丹下 健三

産業

グッピー百科 和泉 克雄
交通事故の賠償金 加藤 了
三里塚 朝日ジャーナル

芸術

私の現代芸術 岡本 太郎
ハイネ誌絵集 一戦いのメルヘン—
古能 後藤 淑
外国映画代表作への招待 スクリー編集部
茶花百科 北尾 春道

語学

おしゃべりフランス語 朝吹登水子
文章の技法 全5巻 明治書院

文学

与謝野晶子全歌集総索引 塩田 良平
復刻有島武郎或る女のグリンプス 福田準之輔
花と詩の旅 寿岳 章子
生命ある限り 曾野 綾子
寿岳文章しづ著作集 全6巻
妻が娘になる時 小島政二郎
石原慎太郎文庫 全8巻
大きな小人 ギーゼラ・エルスナー
乾いた心 カルロ・カッソーラ

レファレンス室

国のシンボル 藤沢 優
読史総覧 新人物往来社
公害と東京都 東京都公害研究所

郷土資料室

草笛 1〜3巻 奈倉梧月編
斐伊川三角州の研究 岡 義重
江津のはなし 森脇太一・七田真

児童室

世界一大きい絵本 (万博展示) 講談社
はくちょうのみずうみ (LPレコード付)

ちびっ子トリオの村や町しらべ 団伊玖磨監修
ふたごのでんしゃ 田中清之助
きご先生とすりばち学校 渡辺 茂男
山田 修

2. 視聴覚資料 (映画〔16ミリ〕フィルム)

| 映画題名 | 巻数等 | 内容 | 対象 |
|------------------|--------------------|--|--------------|
| 職業への道 | カラー4巻 | 最近の青少年の離転職、その解決の一助として青少年の生活設計というものを考えてみるものである。 | 青年・成人 中・高 |
| 差別 | 白黒 3巻 | 日本の部落問題などいくつかの大きな社会問題の根底をなしている差別について考えるものである。 | 成人・青年 中・高 |
| 老人のねがい | 白黒 4巻 | 老人の孤独をいやす精神面での扶養が大きな役割をもっていることを訴え老人の幸せとは何かを示唆する。 | 老人・成人 |
| 働く主婦への助言 | 白黒 3巻 | これから就職しようとする主婦たちに、その根本的な心構えの要点を劇的に描いています。 | 成人・婦人 |
| 白鳥の王子 | カラー6巻 | アンデルセン童話より、長編マンガ | 小・幼 |
| 集団討議 司会者編 形式編 | 白黒 2.5巻 白黒 2.5巻 | より集団討議には何が必要かなどという二つの面から描きその基本的問題や留意点をわかりやすく示す。 | 成人・青年 高・中 |
| 半導体 | カラー3巻 | 半導体に関する基本的な原理の解説とその応用面を取り上げたもの | 高・成人 |
| 人間と技術 | カラー3巻 | 風土に生きる科学、人間と技術のからみ合いなどを探るものである。 | 高・成人 |
| キャンプの基礎技術 | カラー2巻 | キャンプの基礎技術を教えるもの | 高・成人 |
| 第三の人生 | 白黒 3巻 | 創造と奉仕が老後の精神的健康の大きなささえとなっていることを訴えるものである。 | 老人・成人 |